



■ 4月会山行Aパーティ ■ 冬と春の境に

## 丸山スキー場～未丈ヶ岳

1288m峰北尾根、せいの沢右俣滑降

矢野

【日時】 2007年4月7(土)～8日(日)

【メンバー】 矢野 (L)、佐藤(耕)、田邊(一)、小暮

4/7

スキー場では佐藤(耕)さんが大人気。それは深谷ねぎがザック脇に燦然と輝いているから。本日夜の特製鍋料理を楽しみにいざ出発。スキー場トップまでリフトで上がるもすぐ下り。最後のリフトは必要ないようだ。そこからわかり難い地形があり、その後尾根に上がる。1255mまで尾根は部分的に地面が露になり、また雪庇の根元からは今にも抜け落ちそう。1288m直下からは対岸の尾根下部に雪がないことを確認し、皆揃って苦笑。そこで中村Pと分かれ、何とかなるさと北面の尾根に滑り込むと、上部は快適のざらめ斜面であった。しかしすぐに表層雪崩の巣窟となる。対岸に行けるか若干不安を感じた頃に12:00の無線交信となり、危惧を伝えた我々に佐貫総リーダーの心強い一言、「頑張る」。これで雪が繋がったのか、大鳥沢まで滑走でき、また沢の一部にはブリッジがかかっており、苦もなく対岸へ渡れた。尾根を上がっていくとせいの沢に滑り込む中村Pが見え、白い大キャンパスにしなやかな絵を描いていく。そして雄たけびが山域にこだまする。滑っても勿論、見ても山スキーというダイナミックな遊びに魅了される。中村Pは下部の雪不足で若干苦勞している様子だったがそのまま谷に吸い込まれていった。その後我々は尾根を大部分登りきり、1389m手前で天幕とする。お待ちかねの特製鍋料理、食の不思議なハーモニーに驚きと喜びの連続であった。

4/8

翌日は予想外の悪天。早々に出発し、未丈ヶ岳まで来たもののガスでとても滑れそうになく、頂上直下で天気回復を待つ。そこに各パーティー続々と集まり、たった一日でもそれぞれ盛り沢山の話の種を持ちよっては談笑する。時間はあっという間に過ぎ、最後の笹川Pを皆で迎え、めでたく頂上集結となった。その後矢野と小暮さんでせいの沢右俣(東尾根途中から)を滑降。重い滑りやすい斜度と広さであった。二俣からすぐに登り返してC1幕営地へ。そこで頂上から直接戻った耕至さん、田邊さんと合流し、ジャンクションピーク(JP)から散っていく各パーティーを追いかけるように出発。JP手前の鞍部までトラバース。JPからはスキーを活かしてスピードアップ。何とか楽できるようなルートを探しつつ行くとうまいことスキー場の途中に出た。スキー場が剛毅にお汁粉をふるまっており、それをAパーティーの締めくくりとさせてもらった。

**【行程】**

4/7 スキー場トップ (9:00) ~1288m峰下 (11:05) ~大鳥沢 (12:15) ~  
~1389m直下C1 (14:50)

4/8 C1 (6:15) ~未丈ヶ岳 (7:15-10:00) ~せいの沢二俣 (10:15) ~C1 幕営地 (11:10  
-11:40) ~ジャンクションピーク (12:20) ~スキー場下 (14:20)

**【地形図】** 奥只見湖 未丈ヶ岳



★P1288 より北東尾根を滑る (耕至さん)



★せいの沢右岸尾根を登る



★かうのき沢上部の大斜面を滑る